

利根(南)圏域における地域包括ケアシステム関係者意見交換会について(その2)

地域包括ケア病床等については、今後必要性が高まる一方、地域によって介護老人保健施設等との関係性や必要とされる機能は異なる。そこで、地域包括ケアシステム構築に向けて、現状や連携状況等を確認・共有した上で、病床整備を進める必要がある。第7次計画公募により、パーク病院（白岡市）の在宅療養支援病床の増床が認められたことから、関係者で意見交換会を実施した。

【開催概要】

- 日 時：令和3年3月15日（月）（資料送付日）
- 形 式：新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から書面による開催
- 参加者：白岡市を中心とした医療・介護関係機関
 医師会（1機関）、病院（10機関、新たに病床を整備する病院含む）、介護老人保健施設（1施設）、特別養護老人ホーム（4施設）、地域包括支援センター（2機関）、在宅医療連携拠点（1機関）、市（2課）、消防（1機関）、幸手保健所 計：23機関
- 内容
 - 病院整備計画の概要、各市における地域包括ケアシステム構築に向けた課題等について説明後、意見交換会を実施。
 - 主な意見
 - <病院から>
 - ・ 地域包括ケア病床には、ポストアキュートとしての機能を期待するものである。
 - ・ 在宅復帰見込みのある方やその家族に、自宅で過ごす手段や方法の指導を受けられる機関であることを理解してもらい、入院時から「施設」を選択させてしまわないようにすべき。
 - <介護老人施設等から>
 - ・ 治療が終了し施設に戻る前にもう少しリハビリを行うと、利用者や家族が安心して施設で生活できる場合がある。
 - ・ 何らかの医療行為が必要な場合、介護負担軽減のために施設のショートステイを利用したくても受入れできない場合がある。レスパイト入院など柔軟な対応が可能になれば医療・介護・地域の連携につながると思う。
 - ・ 「時々入院、ほぼ在宅」といった役割、機能を担う地域の病院があることで、医療・介護の連携による包括的支援体制が構築でき、最後まで住み慣れた自分の家で暮らしたい本人と家族の望む生活が実現できるものと期待する。



<新たに地域包括ケア病床等を整備する病院から>

- ・ 増床ベッドを活用し、レスパイト・ポストアキュート・サブアキュートの患者受入れを円滑に行い、当圏域で地域包括ケアシステム構築の潤滑油としての役割を担っていきたい。